

在りし日の故・笠原貞男君を偲んで

学友の一人、花の同業者の一員として81歳の他界は早すぎたと惜しまれます。「人生僅か50歳」時代の吾々で、しかも兵役（昭和5年生まれ）もなく、現代の医学からすると90歳前後までは匠の技術者として業界・後輩のご意見番として余生を過ごしてもらいたかったと悔やんでおります。

私と故・笠原君の関係は、昭和24年学生制度変更により千葉農業専門学校（3年制）が千葉大学園芸学部（4年制）となり、専門学校2年生に欠員ができ、私は編入生として高知農業高等学校より入学したことに始まります。3年生になり専攻科選定を花卉とし、故・穂坂教授の下で花卉専攻の故人との関係が生まれました。6名の専攻生の中で、社会人となってからですが、千葉大花関係者の会『花葉会』では「岩佐吉純、笠原貞男、和田大」は「花葉会の3人組」と云われたこともありました。3人組（岩佐はタネ屋、笠原は切花屋、和田は花の造園屋）と、花に関するタネ・切花・花壇苗、花卉業界のすべてを3人で歩んでいるとのことと解釈しておりました。

現役時代の故人は、皆様ご存知の通り、「身長1.7m前後の風格・口髭・鏡の頭」は世間に対して「押しの利く」風貌そのものでした。学生時代は光沢ある黒髪で口髭無しの好青年でした。

最終学年3年のとき、アルバイトに行かないかと誘われて進駐軍将校の家（下高井戸と記憶）の庭手入れに週4回通いました。私にはできなかった片言会話で、満足していただいた仕事を完了。有難かった半面、心臓の強い人だなーと、感心いたしました。何にでも向かっていく彼には敬意を覚えました。

渋谷にフローラルアートスクールを設立し、時代の波に乗り、渋谷を基点として東京はもちろんのこと、日本各地に招かれて飛び回っており、毎年行われている昭和26年卒のクラス会にも欠席がほとんどでした。年月は忘れましたが、歳早々の「藍綬褒章」の受賞、

母校千葉大学園芸学部の非常勤講師、埼玉テクノホルティ専門学校講師など、華々しい業績と数えきれないフラワーデザイナーを育成しております。物怖じしない性格、物事の早取、着実に実行する性格は学生時代から持ちあわせておりました。

切花界・デザイン界での大変化は「宿根カスミソウの出現」で、装飾技術の一般化（ソロバンと電卓の差）の対応を尋ねると、即座に「一輪で効果を倍増させる品種、例えばヒマワリやアンズリウムの色変わり」などの答えでした。カスミソウを活かす手法？ カスミソウを利用する手法？ など、私ではその路ではないので不明ですが…。

現役終盤に日本フラワーデザイナー協会の会長を任されましたが、技術屋・匠の職人と申しますか、弱い経理・経営の面で不覚の落とし穴に追い込まれ、大変な個人的責任を取らされ、業界のすべての業務から手を退きましたが、本当に気の毒でした。

その後、体調を崩し、大施術・入退院を繰り返したようです。平成20年10月の千葉県外房州のクラス会には何年振りかで顔を出してくれました。

吾々俗世で「賢人・善人は早々に逝き、残るは凡人・悪人ばかり」と云われており、私もその一人かと歳なりの日々を『払いすぎた年金を貰い切るまで』と、歳なりに頑張っております。

平成22年10月16日、奥様より3日前に癌で入院したとのことで、柏の病院に見舞いに行きましたところ、本人は元気で、癌ではなく腰の骨のようでありハビリOKとのこと、明日退院とのことで安心していました。23年3月早々に電話をしたら、奥様から「また入院」とのこと。一両日中に見舞いと予定を探していたところ、運悪く3月11日の東日本大震災のため交通機関の問題があり、直ぐには行けず延び延びとなっております。5月、ご子息から死亡の連絡をいただき驚きました。「今生のお別れ」をしたかったと後悔しました。

5月14日のお通夜には出席しましたが、15日の朝9時からの葬儀には静岡県・小山町からの交通機関が間に合わず失礼いたしました。

天国でゆっくりと自由に花を楽しんでくださいと祈りながら、筆を置かせて頂きます。

和田 大 拝（千葉大学園芸学部花卉専攻 昭和26年卒）



3人組の一人、故・岩佐氏の花華人生50年祝賀会の会場を匠の技を発揮して装飾した笠原氏の装飾作品（1999年10月16日 ホテルオークラ）㊦とその日の笠原氏㊧